



# 島はまちづくりの原点であり 元気の源

笠岡市長(岡山県) 高木直矢  
*Naoya Takagi*

## 島から行政経営を学ぶ

私の人生は地方自治一筋です。笠岡で生まれ育った私は笠岡市職員を経て、平成4年助役に就任。平成12年4月笠岡市長に当選し現在3期目となります。

瀬戸内海に浮かぶ大小30有余(有人島7島)の多島美を誇る笠岡諸島と特別天然記念物カブトガニ繁殖地、そして全国2番目の大きさの笠岡湾干拓地(1191ha)は、笠岡市の宝であります。とりわけ、美しい自然と豊かな個性・文化伝統である笠岡諸島は、私の元気の源であります。島は私の目指す協働のまちづくりの原点でもあり、疲れた心を癒やしてくれるものでもあります。

多忙な日々ですが、島を訪れるたびに、青い海、自然の恵みの中でリフレッシュし、島で懸命に頑張っている方々と語り触れ合うことで、多くの行政経営を学んでいます。

昭和30年代には人口も1万人を超えていましたが、現在では約2600人となっています。豊かな自然に恵まれているものの、交通の便の悪さというハンディがある中で、若者たちの定住はままならず、ほぼ2人に1人は65歳以上という日本の超高齢社会を先取りしている状況です。こうした島の方々の強い願いは、高齢化社会に対応する医療・福祉サービ



島を挙げての祝福の中で行われた移住者の人前結婚式

いうような声を聞き、「島おこし」を行うためには、そこに住んでいる方々の本音の部分に行政が腹を割って心を通わせながら、島民と協働で取り組んでいくことのできるスタッフが必要不可欠だと痛感しました。

そこで、島の方々に学びながら島で生活する皆さんを応援する任務を持つ特命組織として、市長直属の「島おこし海援隊」を発足させました。前例なき仕事に挑



島民の心が一つになる運動会には積極的に参加

スの推進です。

しかし、各島に福祉施設を設けることは困難です。ならば、行政が施設の出前を行おうとの発想で、全国で初めての動くデイサービス

として「福祉の船」の運航を開始しました。各島を月2回訪問し、午前中は寝たきりの方々の入浴サービス。午後からは一般高齢者のリハビリと健康チェックなどを行います。

寝たきりのために自宅で家族に体をふいてもらうだけで、1年も2年も湯船に入れなかった方が「夢ウエル丸」の特殊浴槽に入り、スタッフの手を握り、「気持ちエー。生きていてよかった」と言われたと

戦する人材を私が直接面接し、3人の隊員を選びました。

ちょうどこのころ、歌手の武田鉄矢さんが「島おこし海援隊」の話を聞き付け、本物の「海援隊」が応援に来島されたのは驚いたり、感激したりで、島中が大喜びに沸いたものです。

発足以降、「海援隊」の活動は島を勇気づけています。島での問題、課題、日常生活の不便さなど、ありとあらゆる課題克服のため、各種会議、集会に出席し、昼夜を問わず、島の住民の一人として考え、悩み、苦しみながら島の方々と協働で一つ一つ問題・課題解決の実現を図っています。

行政が、ハードや財政的投資だけでなく、人材支援を行うことにより、島の方々の喜びの声、元気な声、期待の声がこれほど寄せられたことを私は知りません。島の中に行政がやるべき課題があり、この課題解決の知恵も出てきます。

## 日本の未来を先取る

笠岡諸島には地理的なハンディはありますが、「美しい自然、温かい人情、ゆったりした時の流れ」が味わえる大きな強みがあります。激動する現代社会において、人の心の癒やを癒やす場の一つが笠岡諸島です。

団塊世代をはじめ、心の癒やしを島に



きの満面の笑顔はいつまでも忘れません。政治は弱者のためにという私の理念を改めて感じています。

## 島の中にこそ知恵がある

島の方々と話す中で「近年、島の弱みばかりが目立っているけれど、島には強みがある。しかし、強みを生かすことを考えたとき、今、島に一番不足しているのは人材です。市長、何とかしてほしい」と

求める方が急増しています。先日実施した「空屋巡りツアー」への全国からの応募人数が、予想をはるかに上回ったことが象徴しています。

現在19世帯41人が移住されています。先日移住者の人前結婚式が、島民の手づくりで、島挙げての祝福の中で行われました。本人たちはもちろんですが、私たちも大きな感動を頂きました。

私は島の高齢化率の高さ、人口減少について心配していません。人口増や若者定住の望みばかりを追求するのではなく、人が人たるにふさわしいコミュニティの中で生活する豊かな温かい笠岡諸島であってほしいと願っています。

隣人同士が相互扶助の支え合いの下で、健康で、豊かな自然に恵まれた自給自足で暮らせる島の実現を望んでいます。そこには、自治の原点である地域で暮らせる人々と行政との協働の取り組みがしっかりと根付いていなければなりません。

笠岡諸島は、ある意味で将来の日本の縮図といえます。笠岡市の宝である笠岡諸島を島の方々と手探りではありませんが、力を合わせて日本一住みやすい島を目指して、つくり上げてまいります。

自然から生きる力を学び、島を大切に、自然と共に生きる喜びを感じながら私の理念である「仁恕」で頑張っております。